



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



トラッキング現象による火災の防止について

最近、トラッキング現象によるボヤ火災の報告がありました。幸いにして大事には至らなかつたものの、消防署にととまらず、警察の対応とともに、マスコミにも取り上げられるという事態になりました。

医療機関、とりわけ多くの入院患者を抱える病院では、医療事故とともに、火災などによる人命への危険を回避する重い責任があることはいうまでもありません。

火災の原因、発見後の対応の問題など、どこの事業所でも遭遇しうる事例です。ぜひ、各事業所で点検、見直しをすすめましょう。

【トラッキング現象とは？】

「トラッキング現象」とは、長期間コンセントやテーブルタップにプラグを差し込んだまま使い続けていると、コンセントとプラグの隙間に徐々にほこりがたまり、このほこりに水分が付着して電気が流れ始め、やがてプラグが炭化し、ついには発火につながる現象をさします。

「ビル火災の3割はトラッキング現象による」との報告があるくらいですし、この現象が原因の火災が東京都内では年間100件余り発生しています。けっしてめずらしい現象ではありません。

また、「短絡現象」といい、コードの上に重い物を置いたり、コードを折り曲げた状態で長時間使用すると熱を持って、やがて出火する現象にも同様に注意が必要です。

【トラッキング現象を防ぐには】

以下を参考に、各事業所の実情に合わせて対策を検討してください。

- ① コンセントに長期間差し込んでいるプラグは、一度抜いて乾布等でふいてほこりを除去する。
やむを得ず長期間差し込んで置かなければならない場合は、少なくとも電気設備の定期点検に合わせるなど年1回はプラグやコードの清掃をおこなう。
- ② 万一焼け焦げていたり、コードが熱くなっていたり、コードの持ち方によって電気が入ったり切れたりする場合などは、直ちに専門家に点検してもらう。
- ③ 物陰にあるコンセントや冷暖房機器の近く、水回りの近くにあるコンセントは、他よりも出火の危険性が高い場所なので特に注意する。

【防災教育・訓練の見直しと徹底を】

「トラッキング現象」も「短絡現象」も、電気を使用していない夜間帯や休日などに発生する確率が高くなります。スイッチを切った状態で機器が接続されていると、電気は機器に流れず、トラッキング部分などに流れ出やすくなるからです。今回の事例も、早朝で、まだ機器が稼働していない透析室で出火しました。

加えて、今回の事例では、防災マニュアルはあるものの、実際の火災発生の場に遭遇した時パニックになってマニュアル通りに動けず、結果として消防への通報が遅れるという問題も明らかとなりました。多くの病院でも同様の事態になりうる可能性は大きいものと考えられます。繰り返し防災に関する教育・訓練をおこなうことが求められます。とりわけ夜間の受付など、実際に配置につく夜間パートや警備員などへの教育・訓練も怠らないことが大事です。